

第四番 大芝組



明治30年以前の造立の山車といわれ、那古地区の中では一番古く、館山市内でも古式で、梶は丸太棒の一本舵を継承しています。人形は三種の神器を持つ「神武天皇」、彫刻は松の木に群れる小鳥を狙う鷹の丸彫りで彫刻師は後藤喜三郎橘義信作、大幕は右面が松に鶴、左面が雲に鶴。

年番 芝崎組



明治30年以前の山車とされ、平成31年に大修繕を施しました。大幕は京都で新調し、唐獅子に牡丹の刺繍です。彫刻は、大きく羽を広げた鳳凰が梁に留り、前柱は相生の松に鶴、高砂の尉と姥が刻まれ、長寿を表す吉祥の彫刻となっています。さらに、初代後藤義光作の表情豊かな金剛力士が四隅に座ります。

第貳番 寺赤組



明治32年制作。扁額の「建む中興」が示すとおり、山車全体で「太平記」の物語を表現しています。人形は「後醍醐天皇」、大幕は楠木正成が辞世の句を残す名場面を江戸後期の伝統的な技法で刺繍し、立体感や遠近感が感じられます。彫刻は後藤義光の晩年の最高傑作と言っても過言ではない出来栄です。2003年館山市指定有形文化財に指定されています。

第三番 濱組



建造は明治43年、彫刻は後藤喜三郎橘義信作で、鯉の滝登り、芸州厳島の全景、七福神など。人形は弁財天。胴幕は登り竜、下り竜。房州一の大太鼓、固定式梶棒が自慢。濱町内の厳島神社にちなんだ彫刻、人形が特徴。

第五番 宿組



大正4年制作の那古地区唯一の屋台です。お囃子は江戸囃子の「屋台・四丁目」「ぴつとこ」を奏でます。彫刻は鬼板が珠取龍、前柱が龍、後柱は唐獅子、欄間は花鳥や素戔嗚尊と八岐大蛇、天岩戸の天照大神などの神話、高欄の八面には郭巨、楊香、孟宗他、二十四考です。一番の見所は、境内入口で行う「鎌倉」のお囃子に乗せた白狐舞い。

第六番 東藤組



現在の山車は昭和11年に製造された六台目。彫刻は後藤義徳によるもので、豊臣秀吉の幼少期から太閤になるまでの出世物語を表しており、大幕は秀吉ゆかりの加藤清正が虎退治する様を表している。人形は太閤秀吉と馬印の千成瓢箪。扁額は正面に「豊國」。囃子台の内には「協力一致」が彫られている。

那古観音祭礼

見どころルートマップ

発行：那古祭礼興隆会

那古観音祭礼

「なごのまつり」は補陀落山那古寺の本尊千手観世音菩薩の7月18日の縁日に実施されてきたことから正式に「那古観音祭礼」と呼ばれている。

那古寺は717年僧行基が千手観世音菩薩を敬刻安置したところ始まると伝えられて1308年の歴史がある。その間には、源頼朝をはじめ関東公方足利氏、里見氏、徳川氏らの武家の信仰を集め栄えました。また鎌倉時代に創設された坂東観音霊場の結願所第33番札所となり江戸中期より今日まで地元はもとより全国から老若男女の区別なく参詣されている名刹である。

祭礼の起源は定かではないが、江戸時代まで鶴谷八幡宮を別当寺として仏教行事「放生会」という祭礼を行うに当たり花車という曳くものにて八幡宮に参拝したという口承がある。明治に神仏分離令が発令されてからは八幡宮との祭礼交流がなくなり各町内で独自で祭礼を行ってあったが、明治30年の観音縁日にあわせ、1年交代の年番町内が祭礼を仕切る規約を定め発足以来128年の由緒ある祭礼となっている。

2025年祭礼日は、7月18日午前10時に観音堂にて祭典に当たる護摩祈祷法要を行い「道中安全・町内興隆」と「世界平和・人類幸福」を祈願する。19日(土)宵祭は各町内を、20日(日)本祭として6町内を山車5台屋台1台の曳き廻しを実施する。

本祭当日10時頃に6台が那古寺本坊前境内に参集し、出発式を行う。その折に護摩札を各山車屋台に授与安置し、正午に年番より巡行が始まる。18時～22時まで観音堂下の県道では車両規制が実施され各町内の腕自慢の太鼓打ちを中心に「笛・太鼓」お囃子の演奏が繰り広げられ、祭りムードは最高潮に達する。

年番山車より次々に那古寺本坊前に還内し、年番渡しを行い解散する。

祭礼参加者は本尊千手観世音菩薩に帰依が深まり、厳粛規律を重んじて祭礼に係ることを誇りに思っている。



令和7年7月20日(日)

那古観音祭礼 見どころルートマップ

引廻し順

年番 芝崎組
第貳番 寺赤組
第参番 濱組
第四番 大芝組
第五番 宿組
第六番 東藤組

⑥ 歩行者天国

18:00~22:00

夏夜に揺れる提灯。競い合い打ち鳴らす太鼓が山に木霊するころ、最後のすれ違いを名残り惜しみながら、那古寺に向かって行きます。

⑦ 那古寺入場

先頭入場 20:00
殿 入場 20:40

那古寺本坊前

集合10:00

① 出発式 10:10~10:30

先頭出発10:30 殿出発10:55
祭礼の成就と道中の安全を祈願し年番より那古寺を後にします。

⑧ 年番渡し 20:30~

先頭到着19:45 殿到着20:25
互いの労をねぎらい、次年に繋いでいく伝統ある儀式。その厳粛さに会場が一つとなります。

④ 第一中学前折返し

先頭折返し 15:55
殿 折返し 16:20

⑤ 全町内勢揃い

先頭到着 16:05
殿 到着 16:30
.....休憩.....
先頭出発 17:30
殿 出発 17:55

③ 大芝折返し

先頭折返し 14:50
殿 折返し 15:15

② 東藤折返し

先頭折返し 11:15
殿 折返し 11:40

那古寺本坊

昼食

先頭到着 11:55
殿 到着 12:20
~休憩~
先頭出発 14:00
殿 出発 14:25

各組が人形をかかえて横一列に並んでいるさまは壮観です。そして提灯に灯がともりはじめます。



出発式



年番渡し

